

## 2026年度 学校自己評価表

中長期目標(学校ビジョン)
<p>1. 鳥取県内有数の進学校としての地位の確立</p> <p>①国公立大学・難関私大現役合格率6割以上確保(すべての生徒が妥協せず本に行きたい大学に進学する)</p> <p>②進研模試、校外模試において学年平均偏差値50以上確保(中学各クラスで60以上、高校各クラスで65以上の生徒3名以上)</p> <p>③各種検定の規定級以上を全生徒が取得する。</p> <p>④SDG s の達成に向けて新たな価値を創造し、努力し続ける生徒の育成</p>

今年度の重点目標
<p>1. 学習指導の充実と進路指導の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇国公立理系医・歯・薬、旧帝大レベルを含んだ難関大及び国公立大進学者5割(10名以上)を目指す。</li> <li>◇各学年、学力推移、進研模試における各教科及び3教科総合全国偏差値平均を1年間でアップさせ、クラスの偏差値平均50以上、中学各クラスで60以上、高校各クラスで65以上の生徒3名以上の実現。</li> <li>◇各種検定取得率アップを目指す。規定級を超える生徒数の増加を目指す。</li> <li>◇SSH認定3年目となり、全校体制の事業実施を目指す。またどの教員がチューターとなっても生徒の課題研究が一定レベルを担保できるように指導する</li> <li>◇円安の緩和やアジア地域での国際情勢を鑑み、グアムでの海外研修を実施する、アロハフレンドシップ事業など環境教育を絡めた国際教育を充実させる。</li> </ul> <p>2. 学校運営の充実と教育環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇中部地区からの生徒流出を防ぐべく、高校からの入学生を含め湯梨浜学園高等学校入学者30名以上獲得する。中学入学者は定員の36名を目指す</li> <li>◇生徒の部活動、課題研究充実等、多方面への教育改革を目的とし学校行事、梨友会行事の精練をおこない、また教職員の働き方改革にも務める。</li> <li>◇学校通信、学級通信など各種広報紙の定期的発行、HP、インスタグラム、BLEND、You Tube、Zoomなどをつかった情報提供迅速化、頻繁な更新に努める。</li> <li>◇SSH1期3年目の折り返しとして、中間評価をしていただく。各大会や表彰にも積極的に参加し実績を挙げる。自走化に向けて対策を練る</li> <li>◇授業の質の向上、教職員が生徒一人ひとりと向き合う時間を確保するため鳥取県の学校業務改善プランに準じ勤務時間外の電話対応、面談対応業務の縮小等で教職員の働き方改革を推進する</li> </ul> <p>3. 生徒指導の徹底と教育相談の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇「あいさつ」「定時」「掃除」を指導の3つの柱に据え、規範意識を高めて、社会に必要とされる人間形成に努める。</li> <li>◇適宜個別面談などを通し、生徒理解に努め、教育相談、スクールカウンセラーとの連携で悩みの解決や相談にあたる。養護、担任だけでなくすべて教員が相談室登校の生徒への対応を行い、クラス授業への移行支援を行う。また相談室指導からクラス指導への移行に尽力する</li> </ul> <p>4. 人権教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇あらゆる場面、あらゆる教科で、すべての先生が人権教育視点に立った教育を行う。</li> <li>◇いじめのない学校をめざす</li> </ul>

評価は S(達成) A(ほぼ達成) B(あと一歩) C(未達成) です。

評価項目	具体的項目	中間評価	達成状況(年度末)と次年度の課題	評価
1. 学習指導の充実と進路指導の強化	国公立理系医・歯・薬、旧帝大レベルを含んだ難関大及び国公立大進学者5割(10名以上)	/		
	校外模試における数値目標達成(クラスの偏差値平均50以上、中学各クラスで60以上、高校各クラスで65以上の生徒3名以上)			
	各種検定取得率アップ			
2. 学校運営の充実と教育環境の整備	中学入学者36名以上、湯梨浜学園高校入学生30名以上の獲得	/		
	SSH3年目として、発展的事業の推進			
	環境教育を絡めた国際教育の充実			
	週5日制の移行に伴う学校行事、梨友会行事の精練			
	HP、インスタ、Blendなどでの積極的情報提供			
	教職員の働き方改革の推進			
3. 生活指導の徹底と教育相談の充実	生徒指導の3つの柱(あいさつ、定時、掃除)を、教職員間でのプレなく徹底する			
	生徒との教育相談の機会を充実させ、自己肯定感を醸成する			
4. 人権教育の推進	学校生活でのあらゆる場面で、人権教育的視点にたつ			
	いじめアンケート、ケース会議を実施し、生徒の心の動きを敏感に察知する取り組みを設ける			